

平成 22 年  
7 月 1 日

# 病害虫発生予報 7 月号

茨城県病害虫防除所  
茨城県植物防疫協会

全ての農作物に残留農薬基準が設定されています！！

薬剤散布の際は周辺作物へ飛散しないよう十分注意しましょう  
平成 22 年度農薬危害防止運動実施中です (6/15 ~ 9/14)

## < 目 次 >

### . 今月の予報

#### 【注意すべき病害虫】

水稲：いもち病(葉いもち), 斑点米カメムシ類	1
水稲：イネツトムシ	2
ナシ：黒星病, ナシヒメシンクイ	2
ナシ：ハマキムシ類	3
果樹共通：カメムシ類 (越冬世代成虫 ~ 第一世代成虫)	3

【その他の病害虫】	4
水稲, サツマイモ, ナシ, ブドウ, カキ, クリ, 夏ネギ, 夏秋ナス	

### . 病害虫ミニ情報

果樹のカメムシ類について	5
--------------	---

. 今月の気象予報	6
-----------	---

. テレホンサービス	6
------------	---

029(226)5321

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報検索システム」(<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>)で確認することができます。

水田において農薬を使用するときは、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を1週間程度とすること。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel :029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

・ 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1．いもち病（葉いもち）

【予報内容】

発生時期	発 生 量	発生地域
-	平年並	県下全域

【予報の根拠】

6月下旬現在、葉いもちの発生は平年よりやや少ない。  
6月におけるいもち病の感染好適日（BLASTAM による）の出現日数は、平年よりやや多い。  
特に、6月下旬にいもち病の感染に好適な気象条件が県内の広い範囲で出現した。  
気象予報によると、向こう1か月は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され、本病の発生に好適な条件である。

BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム

【防除上注意すべき事項】

稲の葉色が濃い部分、置苗及びその周囲、水口などを観察し、初発の確認に努める。例年、梅雨明けまでは、発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも、今後とも注意する。発生がみられる水田では、防除を実施する。なお、粒剤で防除する際は、必ず湛水状態で薬剤を散布し、薬剤の効果や環境への配慮から1週間は止水して、湛水状態を保つ。その後、生育に応じた適正な水管理にもどす。  
置苗は、いもち病の発生源となる。現在、水田に置苗がある場合には、持ち出して土中に埋める等の処分をする。

2．斑点米カメムシ類

【予報内容】

発生時期	発 生 量	発生地域
平年並	平年並	県下全域

【予報の根拠】

6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草において、斑点米カメムシ類の発生は平年並である。  
なお、本県の主要種であるクモヘリカメムシは確認されず、平年並である。

【防除上注意すべき事項】

農道や畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草を徹底する。  
ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂2週間前までに終わらせる。  
出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は、防除を実施する。

(水稲 続き)

### 3. イネツトムシ

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
平年並～やや早い	やや多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

6月下旬現在，平年よりやや多い発生である。

6月下旬現在，第一世代幼虫の成育は平年並～やや早い。

[ 防除上注意すべき事項 ]

葉色の濃い水田や，飼料稲では特に発生に注意する。

被害が大きくなる第二世代幼虫の発生は7月下旬からと考えられるので，7月末～8月初めに水田を観察し，幼虫が小さいうち（葉先が巻かれ始めた時期）に防除を行う。

## ナシ

### 1. 黒星病

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
-	やや多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

6月下旬現在，発病葉率は平年よりやや高く，発病果率は平年並である。また，葉での発生地点率は平年よりやや高い。

気象予報によると，向こう1か月は平年と同様に曇りや雨の日が多いと予想され，本病の発生に好適な条件である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

発病した葉及び果実は二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める。

果実肥大盛期となる7月は，「幸水」の果実が感染しやすい時期となるため，DMI剤の散布を必ず実施する。

薬剤散布は，10a当たり300リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

薬剤耐性菌出現回避のため，DMI剤の年間使用回数は原則3回以内に抑えることが望ましい。梅雨明けが遅いなど，7月下旬に降雨が多い場合は，果実への後期の感染を防ぐため，追加防除を行う。なお，薬剤散布にあたっては収穫前日数に十分注意する。

### 2. ナシヒメシンクイ

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

(ナシ ナシヒメシンクイ 続き)

[ 予報の根拠 ]

6月下旬現在，被害果は認めず平年並である。

6月下旬現在，第一世代のフェロモントラップへの誘殺数は，笠間市で平年よりやや多く，土浦市で平年並である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

被害果を見つけた場合は，土中深く埋めるなど速やかに処分して，次世代による被害を防ぐ。薬剤防除は，次世代幼虫（第二世代）の発生初期にあたる7月中旬に実施する。

薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかけりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

3．ハマキムシ類

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
平年並	平年並～やや多い	県下全域

[ 予報の根拠 ]

6月下旬現在，被害果は認めず平年並であるが，一部で葉にわずかに発生を認めている。

6月下旬現在，チャハマキ越冬世代成虫の誘殺数は，予察灯（かすみがうら市）では平年よりやや多く，フェロモントラップ（笠間市）では平年並である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

薬剤防除は，次世代幼虫の発生初期にあたる7月中旬に実施する。

徒長枝の多い圃場では，発生が多くなりやすいため，丁寧に薬剤散布を行う。

薬剤散布は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部など，薬液のかけりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

果樹共通

1．カメムシ類（越冬世代成虫～第一世代成虫）

[ 予報内容 ]

発生時期	発生量	発生地域
-	平年並	県下全域

[ 予報の根拠 ]

6月下旬現在，被害果は認めず平年並である。

6月下旬現在，チャパネアオカメムシ，クサギカメムシ成虫の予察灯（かすみがうら市）への誘殺数は平年並である。

[ 防除上注意すべき事項 ]

薬剤散布は，カメムシ類の活動が鈍い早朝に行う。

7月以降の次世代成虫の発生状況については，今後の防除所の最新情報を確認し，防除の参考にする。

（P.5 病害虫ミ二情報 参照）

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予想	発生概況及び注意すべき事項
水稲	紋枯病	発生量：平年並	稲の生育が軟弱になっていると、被害が大きくなるので注意する。
	稲こうじ病	発生量： -	穂ばらみ期～出穂期にかけて、低温で降雨が続くと発生が多い。常発地では防除を行う。
	縞葉枯病	発生地域: 県西地域 発生量：平年並 ～ やや多い	本病を媒介するヒメトビウンカの麦畑での発生は、平年並である。3月におけるヒメトビウンカの保毒虫率は、県西地域の一部の地点で高かった。
	ニカメイガ	発生量：平年並 ～ やや多い	近年、発生量が増加傾向にある。現在、心枯れの目立つ水田では、8月上旬～中旬に防除を行う。
サツマイモ	イモキバガ	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
	ナカジロシタバ	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
ナシ	アブラムシ類	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
	ハダニ類	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
ブドウ	べと病	発生量：平年並	6月下旬現在、一部で葉及び果房での発生を認めた。
	晩腐病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。 袋かけ前の防除を徹底する。
カキ	落葉病類	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
クリ	モモノゴマダ ラノメイガ	発生量：平年並～ やや多い	6月下旬現在、予察灯（かすみがうら市）への誘殺数は、平年並～やや多い。 「神峰」は、モモノゴマダラノメイガの被害が発生しやすいので特に注意する。
夏ネギ	べと病	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	6月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
夏秋ナス	ハダニ類	発生量：やや多い	6月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	ミカンキイロ アザミウマ	発生量：やや多い	6月下旬現在、平年よりやや多い発生である。
	ミナミキイロ アザミウマ	発生量：平年並	6月下旬現在、平年並の発生である。

## 果樹のカメムシ類について

チャバネアオカメムシやクサギカメムシなどのカメムシ類は、ナシやカキなどの果実を吸汁加害するため、防除上重要な害虫です。これらのカメムシ類の県内における発生状況や果樹園への飛来の傾向、今後の発生予想などについてお知らせします。

### 本年の発生状況

果樹のカメムシ類は、スギやヒノキの球果を主要な餌とし、スギ・ヒノキ林で繁殖します。通常スギやヒノキの球果が成熟するまでの間は、サクラやクワ等の果実を餌にし、その後スギ・ヒノキ林に移動します。果樹カメムシ類の中でも、本県で最も発生が多いチャバネアオカメムシの本年の越冬世代成虫数は0.5頭/落葉30リットル(平成:3.8頭)と、平年よりやや少なく、サクラにおける5月下旬の調査においても本年は2頭/10結果枝(平成:6.5頭)と、平年並~やや少ない発生でした。

本種は年2~3回の発生が確認されており、7月頃からは次世代(第一世代)成虫が出現し始めます。本年は幼虫の餌となるスギやヒノキの球果は少ない傾向にあるため、次世代成虫の発生量は多くはならないと考えられます。**しかし、餌の不足等により、果樹園にも成虫の一部が飛来する場合がありますので、今後の情報に注意して下さい。**

### 果樹園における誘殺状況

果樹園に設置した予察灯では、チャバネアオカメムシの越冬世代成虫は5月上旬に初誘殺が確認されます。さらに、次世代成虫は7月中旬頃から誘殺数が多くなる傾向にあります。

また、下図のように夜温が高い場合は果樹カメムシ類の活動は盛んになり、予察灯への誘殺数は多くなる傾向があります。この傾向は9月頃まで続きます。ただし、夜間の降雨の状況によっては、気温が高くても予察灯への誘殺数が少なくなる場合があります。

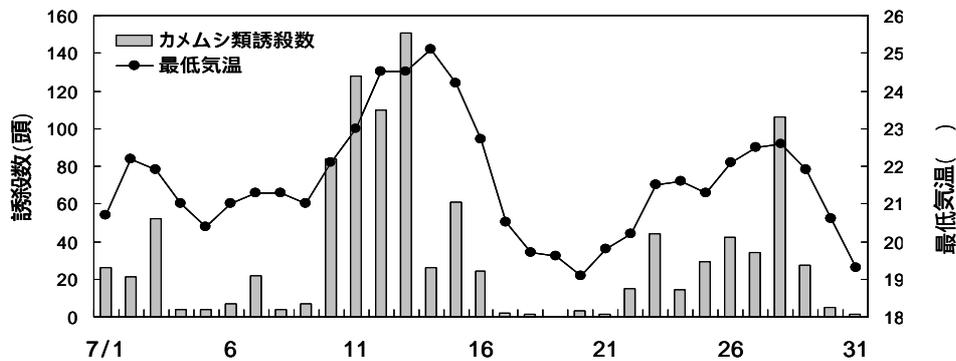


図 平成18年7月の最低気温と果樹カメムシ類の予察灯への誘殺数

果樹カメムシ類が多発生した平成18年の7月の最低気温(土浦市)とカメムシ類の予察灯(かすみがうら市)への誘殺数  
矢印( ) : 夜間から早朝にかけて1mm以上の降雨があったことを示す

### 防除対策

多目的防災網(6mm目または9mmクロス目以下)の設置が有効です。これにより吸蛾類や気象災害(雹)による被害も同時に軽減することができます。

多発生時には、次々と園内に飛来するので、残効の長い薬剤を用いるなど、工夫が必要です。前日の夜温が高かった場合は、翌朝園内をよく観察し、カメムシ類の飛来を確認したら、活動が鈍い早朝に薬剤散布して下さい。

## ・今月の気象予報

### 関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 6月26日から7月25日)

気象庁(6月25日 発表)

< 向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%) >

[ 確率 ]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	40	40	20
日照時間	関東甲信全域	30	40	30

[ 概要 ]

天気は, 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

< 1週目の予報 > 6月26日(土曜日)から7月2日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 80%

< 2週目の予報 > 7月3日(土曜日)から7月9日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 60%

< 3週目から4週目の予報 > 7月10日(土曜日)から7月23日(金曜日)

気温 関東甲信地方 高い確率 40%

## ・テレホンサービス

下記の情報を24時間提供しています。リアルタイムな情報を提供するために, 病害虫の発生状況等によっては内容を変更することがあります。

電話番号: 029(226)5321

7月上旬 ナシの黒星病及び果樹のカメムシ類について

7月下旬 水稻のいもち病及び斑点米カメムシ類について

### 農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。